

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神障害者と福祉実践Ⅰ	2	1	スクーリング科目	青木 聖久
<b>【講義目的】</b>				
<p>本科目では、統合失調症を中心にして、精神障害者のことを様々な側面から知ることを目指す。精神障害者や家族が、これまでどのようなプロセスを辿り「いま・ここに」いるのかや、いかなる社会的背景のなかで暮らしているのかについて、想像力を膨らませ、理解できるようにする。また、精神保健福祉士が、どのような魅力と可能性を有する専門職であるのかについても、第一線で活躍している者の話等を通して、理解を深める。さらに、「自分が精神保健福祉士になる・精神保健福祉士を活用する」等、様々な「自分及び自分たちができること」について考える機会とする。そして、精神障害者や家族に対する実践的な支援のあり方について学ぶことを目的とするものである。</p> <p>精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>①精神障害者や家族の理解、彼らに対する精神保健福祉士の役割の基礎的な部分について説明することができる。</p> <p>②精神保健福祉に関する課題を抱えた人や家族とコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③精神障害者や家族、彼らを取り巻く社会の課題の発見と、その解決について取り組むことができる。</p>				
<b>講義の構成</b>				
<b>【講義の流れ】</b>				
<p>大きくは、2つの軸で展開する。1つ目の軸は、精神障害者理解である。これについては、障害特性と人としての一般性、日本における精神障害者の遠隔、自立についての考え方等を講義する。次に、そのことを深めるために、精神障害を有する本人、家族等をゲストに迎え、体験談等を離してもらい、2つ目の軸は、精神障害者及び家族、さらには、社会に対しての社会福祉実践の理解である。まずは、担当教員からソーシャルワーク等の実践的な話をする。その話をふまえ、PSWとして活躍する実践者からの話、及び担当教員とゲスト講師とのトークや質疑応答等で理解を深めていく、というものである。</p>				
<b>【講義のポイント】</b>				
<p>まずは、「知る」ということが大切である。だが、講義で一方向的に伝えても、「知れたようなつもり」で終わってしまう。そのことから、一つの講のなかに、必ず質疑応答を入れるようにする。また、多彩なゲストを迎えることも、本スクーリングの特徴である。授業では、例えば、精神障害を有するゲスト講師の場合、精神疾患の発病時のこともさることながら、その人が、元々どのようなことを志しており、いまの趣味は何か、のように、「ピープルファースト」（まず、人が先にある、障害はその一部）という捉え方を重要視する。これらを通して、障害の有無を超越して、最終的に、「人間とは素敵なものだ」と感じてもらえることを目指したい。</p>				
<b>準備学修</b>				
<p>参考図書を読み、受講生の「いまある現状のなかで、自分ができること」について、事前に考えておくことが望ましい。</p>				
<b>成績評価の方法</b>				
<p>基本的には、科目修了試験の内容と出席による。ただし、本科目では、グループ討論を重要視している。そのことから、グループ討論の講の出席は必須として位置付ける。</p>				
<b>参考図書</b>				
<p>青木聖久『第3版 精神保健福祉士（PSW）の魅力と可能性 ― 精神障害者と共に歩んできた実践を通して』やどかり出版、2015 ※参考図書は当日持参することが望ましい。</p>				
<b>会場・日程</b>				
<p>東京（あいおいニッセイ同和損保新宿ビル）：2020年5月30日（土）－5月31日（日） 名古屋（明治安田生命名古屋ビルホール）：2020年10月10日（土）－10月11日（日）</p>				